

1999年7月28日

## 東京外国為替市場委員会議事録

開催日	1999年7月15日
場 所	日本銀行
議 長	森岡 俊行（東京三菱銀行）
副議長(議長代行)	大倉 孝（ファースト・シカゴ銀行）
副議長	花井 健（日本興業銀行）
書 記	田中 克（日本銀行）
参加委員数	17名（別紙）

第26回委員会において下記の討議が行われましたので、ご報告申し上げます。

### 記

#### 1. 2000年(Y2K)対応

リスク管理問題小委員会委員長の高松委員（チェース・マンハッタン銀行）から、Y2K対応に関するレターを前回（6月18日）の議事録に添付して発出したほか、レターの英訳を作成した旨の報告がありました。英訳の扱いについては、前回分から作成することとなった議事録の英訳とともに、通常の議事録配布先や海外の外為委員会等に配布することが了承されました（別添参照）。

また、一部委員から、同レター（英訳を含む）を顧客に対して開示しても良いかとの問題提起があったため、検討した結果、(1)各委員、議事録送付先による開示を認める、(2)ただし、実際に開示を行う場合には、当委員会は外為市場に参加する有識者の個人資格による集まりであり、業界ないし市場を代表する組織ではないこと、同レターは強制力を有するものではないこと、を相手方（顧客等）に十分説明することを条件とする、何らかの方法でマスコミにも開示を行う、ことが了承されました。

#### 2. 運営小委員会からの報告

現在当委員会が進めている運営方法の見直しの参考とするため、花井副議長から、当委

員会発足時における綱要策定の経緯について説明が、小林オブザーバー（日本銀行）から、ロンドンとニューヨークの外為委員会の運営状況について報告が、それぞれ行われました。

続いて、運営小委員会委員長の加藤委員（野村信託銀行）から、運営小委員会における論点として、開催時間および会合費用負担のあり方、ホームページ設置による情報開示、各小委員会の活性化、海外の外為委員会との連携強化、ISDA 等国内諸機関との関係、日本銀行との関係等を探り上げていく方針である旨報告がありました。これを受けて自由討議を行ったところ、議事録内容の一段の詳細化、開始時間の変更による会合費用の節減、ニューヨーク外為委員会・シンガポール外為市場委員会合同会合（本年 11 月開催）への当委員会委員派遣、等について提案があり、今後さらに検討を進めることとなりました。

### 3．法律問題小委員会からの報告

法律問題小委員会委員長の小林オブザーバーから、同小委が検討を進めている「ISDA 98 FX and Currency Option Definitions 解説資料の作成」を ISDA Japan との共同作業としたい旨の提案があり、了承されました。なお、本件に関連して、本邦では対顧客の外為取引についてマスター・アグリーメントを適用している例が少ないが、国際標準化の観点からもっと普及を図るべきである、との意見が表明されました。

### 4．教育広報小委員会からの報告

教育広報小委員会委員長の渡辺委員（第一勧業銀行）から、平成 11 年度のフォレックス・セミナーを本年 11～12 月に開催したい旨の提案があり、了承されました。同小委員会において、講師の人選等について引き続き検討を進めることとなりました。

以 上

(別紙)

東京外国為替市場委員会委員名簿(7月15日現在)

<委員>

議長	森岡 俊行	(東京三菱銀行)
副議長	花井 健	(日本興業銀行)
副議長	大倉 孝	(ファースト・シカゴ銀行)
書記	田中 克	(日本銀行)
運営小委員長	加藤 博光	(野村信託銀行)
教育・広報小委員長	渡辺 秀典	(第一勧業銀行)
市場取引に関する小委員長	酒匂 隆雄	(UBS 銀行)
リスク管理問題小委員長	高松 力	(フェイス・マンハッタン銀行)
CFDに関する小委員長	三島 裕史	(さくら銀行)
	菊池 宏	(三和銀行)
	野手 弘一	(住友銀行)
	菅田 克彦	(富士銀行)
	齋藤 廣志	(三菱信託銀行)
	松田 哲	(オーストラリア・コモンウェルス銀行)
	中島 尚彦	(スタンダード・チャータード銀行)
	竹本 隆彦	(ド・イチ・バンク)
	石川 栄一	(イービー・エス・ディーリング・リソース・ジャパン)
	尾崎 信一郎	(上田ハーロー)
	神田 紀昭	(ロイター・ジャパン)

<オブザーバー>

	野口 嘉彦	(マネー・ブローカーズ・アソシエーション)
法律問題小委員長	小林 一夫	(日本銀行)

(注)敬称略(順不同)。 は今回出席。